



表紙 仏花

石川 真樹 [茨城1組 福法寺]

花材 クジャクヒバ、菊、小菊、
ドラセナ類、フリースア、
カーネーション、タニワタリ、
レザーファン



Shinran
850th
800th

—〈2023年 宗祖親鸞聖人御誕生八百五十年・立教開宗八百年 慶讃テーマ〉—

南無阿弥陀仏
人と生まれたことの意味をたずねていこう

東京教区教化委員会報 ネットワークナイン

発行日 2022年4月1日

編集 教化委員会広報・出版部門

『ネットワークナイン』班 編集員
総編集長：本田 彰一（東京1）
チーフ：中村 晃（茨城1）
佐々木誠信（東京4） 朝倉 俊隆（東京5） 五島 大地（東京8） 小田 俊彦（茨城1） 大山 信敬（茨城2） 佐々木 萌（長野5）
チーフ：田上 翼（茨城1）
坂東 性悦（東京2） 平松 正宣（東京3） 櫻田 純（東京6） 秦 顕生（湘南） 和田 祐樹（三浦）
チーフ：田宮 真人（東京8）
土岐 孝広（東京1） 内藤 友樹（東京1） 渡邊 尚康（東京3） 相馬 法道（茨城1） 鞠川 卓史（湘南）

発行 真宗大谷派東京教区教化委員会
〒177-0032 練馬区谷原1-3-7東本願寺真宗会館
TEL. 03-5393-0810 FAX. 03-5393-0814 Email. nw9@ji-n.net
ご意見、ご感想は上記連絡先までお願いします。

もくじ

宗祖親鸞聖人御誕生八百五十年・立教開宗八百年慶讃事業

●03 オンラインお待ち受け大会 荒川 縁

特集

●05 教区オンライン報恩講

●19 法語ポスター

教区教化通信 研修部門

●20 聖典学習会 「正信偈」に学ぶ

教区教化通信 青少幼年部門

●22 第3回青年学習会 須賀 優

教区教化通信 大谷保育協会

●23 子育ての大地 田中 貴章

はい！こちら真宗会館です

●24 駐在日記 佐々木 弘明

はい！こちら真宗会館です

●25 所員のつぶやき 立野 正流

●27 敬弔・涌 本田 彰一



Shinran
500th
500th

—(2023年 宗祖親鸞聖人御誕生八百五十年・立教開宗八百年 慶讃テーマ—

南無阿弥陀仏

人と生まれたことの意味をたずねていく

東京教区500カ寺からつながるオンラインお待ち受け大会

東京教区お待ち受け大会に

あなたは何を課題にして参詣されますか



教区慶讃事業企画運営委員会

お待ち受け・法要部会委員
荒川 縁 (東京7組 瑞法寺)

今回、御法話をいただく池田勇諦先生は、
2021年4月5日、宗祖親鸞聖人御誕生八

百五十年・立教開宗八百年慶讃法要「真宗本
廟お待ち受け大会」でも記念法話をされてお
ります。池田先生は聖徳太子和讃の「慶喜奉
讃せしむべし」からお話を始められました。
この法話の抄録は『同朋新聞』2021年6
月号に掲載されています。

池田先生は「慶讃」という言葉は親鸞聖人
の聖徳太子和讃にある「慶喜奉讃せしむべし」
をそのもととして上げられ、「慶讃」の「慶」
は「慶喜」、「讃」は「奉讃」であるとされまし
た。そして「慶喜奉讃」の左訓である「よろ
こびてほめたてまつるべし」から、『一念多念
文意』で聖人が「慶」について『慶』は、う

べきことをえて、のちによるこぶこころなり」
『真宗聖典』539頁「これは、正定聚の
くらいをうるかたちをあらわすなり」(同前)
という聖人のお言葉を紹介されました。

この「うべきことをえて」とはどのような
ことなのでしょう。漢字で表せば「得べき
ことを得て」となりましようが、なにしろ古
文ですから、今ひとつ分かりません。そこで、
文法にあたってみました。ネットで「古文」
「べき」と検索すると「べし」の連体形と出
てきました。それではと「べし」を検索する
と、「べし」の用法は「推量」「意志」「可能」
「当然」「命令」「適當」「予定」の7つである、
と出てきます。一体何に相当するのか、その
一つひとつの例文を見てみると、どうやらこ
こでの用法は「意志」「可能」「当然」の三つ
にあたるように思われました。つまり「得な
ければならないこと(意志)」「当然得られる
こと(当然・可能)」でしょう。

高校時代にネットがあれば古文の学習も
もうすこし楽だったかも。閑話休題。
それでは、なにを得るのか。それはもちろ
ん、本願念仏に出遇って往生が定まった慶び
を得ることでありましよう。

ところで私は本願念仏に出遇って、本願が

真実だという教えに出遇って、教えを説かれる人に出遇っているのかと不安にも思いますが、「うべきこと」に出遇っているのだろうか。

この度の慶讃法要で、宗祖の御誕生を慶び、『教行信証』の成立を慶ぶとは、私にとつては人と教えに出遇うことが私の中で「うべきこと」であるのかどうかを問われる大切な法

要になるように思えてなりません。

「東京教区500カ寺からつながるオンラインお待ち受け大会」は、大谷 暢裕ちやうゆうご門首をお迎えして、6月13日（月）に開催されます。皆様方もそれぞれの課題をお持ちになってオンラインお待ち受け大会にご参詣ください。多くの皆様のご視聴を願っております。

Shinran 500th

宗祖親鸞聖人
御誕生八百五十年
立教開宗八百年慶讃法要

東京教区
お待ち受け大会

南無阿弥陀仏
人と生まれたことの
意味をたずねていこう

2022年6月13日(月)

ライブ配信
LIVE 13時30分開会 15時30分閉会

YouTube

主催 真宗大谷派東京教区

みんなで付けよう!!

「慶讃バンド」

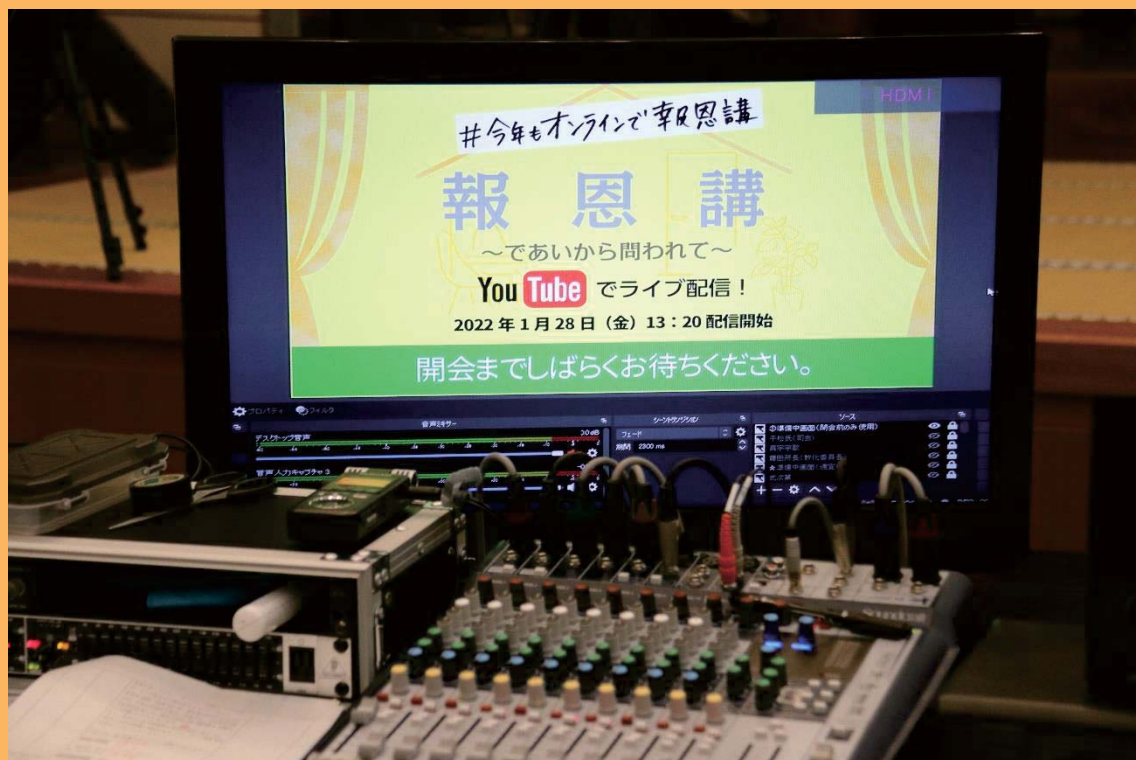
輪袈裟、畳袈裟、坊守章、肩衣に付けて
慶讃法要を盛り上げよう!

宗祖親鸞聖人
御誕生
立教開宗
真宗大谷派（東本願寺）
南無阿弥陀仏
人と生まれたことの意味をたずねていこう

東京教区ホームページ

「慶讃バンド」のPDFデータは東京教区ホームページよりダウンロードできます。どうぞご活用ください。

より一層の周知に資するため、慶讃バンドや着用している写真等を、「#慶讃バンド」を付けてSNSへ投稿をお願いいたします。



東京教区オンライン報恩講

テーマ

「南無阿弥陀仏

人と生まれたことの

意味をたずねていこう」

サブテーマ

「であいから

問われて」

2022年1月28日(金)

感 話 かとう はじめ 氏

(東京7組 順正寺 衆徒)

法話講師 かい ほうりゅう 氏

(三浦組 長願寺 住職)

新型コロナウイルス感染症の影響に鑑み、本年もオンライン配信により教区報恩講を厳修いたしました。

今号では海法龍氏の法話、そして東京教区内各地で、リモートでお参りされた寺院を取材しましたので、掲載させていただきます。

また、この度の教区報恩講を持ちまして、企画会の任期が満了いたしました。同チーフより3年間の振り返りご寄稿いただきましたので併せてご覧ください。



法話

かい ほうりゅう
海法龍氏

三浦組 長願寺住職

「報恩講」という精神

こんにちは。オンライン東京教区報恩講にご参詣いただき、本当にありがとうございます。今年は、ご法話を仰せつかつて3年目となりました。1年目は多くの教区内の関係者が中心となって、非常に荘厳な報恩講が勤まりました。26日が帰敬式、27日がお逮夜、そして28日の親鸞聖人の月命日に、御満座の法要が勤められました。しばらくして、新型コロナウイルスの感染拡大により、昨年の報恩講はオンライン配信となり、今年こそ元に戻った報恩講をと願っておりましたが、残念ながら今も感染状況が厳しい中で今日を迎えました。しかし、こういう状況下であっても報恩講がお勤めできたことは、本当に有り難いことであり大変嬉しく思っています。

親鸞聖人が亡くなってから毎年のご法事を「報恩講」と覚如上人(親鸞のひ孫)が名づけられてずっと勤められてきました。浄土真宗の寺院、また門徒にとって一番大切な仏事です。真宗の仏事の根幹としての「報恩講」です。その「報恩講」の精神でもって、春秋のお彼岸やお盆や修正会、通夜・葬儀、法事

などの儀式が行われてきました。この精神をご門徒の方々が大事にして、今日まで真宗のお寺が維持・相続されてきたのです。そこには「であい」がありました。親鸞聖人との、「南無阿弥陀仏」との、自分自身との出遇いです。私たちはどんな出遇いをしてきたのか、そしてその出遇いをどう生きているのか。「報恩講」の精神に「であい」の内実を確かめ合ってきたのです。オンライン配信になっても、その精神をつなぎ、再び真宗会館に多くの人たちが寄り集い、改めて「報恩講」の精神が相続されていくことが願われています。

本当に出遇ったかが問われる

先程、加藤元さん（東京7組順正寺衆徒）の感話で、「自分には信心がなかったのではなか」というお話がありました。「信心がなかったのでは」という問いは、「本当に親鸞聖人に出遇っていたのか」ということだと思えます。加藤さんは座談会で「聖人は法然上人に騙されて地獄に落ちても信じるのだと。信じることは大事だ」ということを隣の方の言葉から聞かれました。信じるということには出

遇いがあるのです。その出遇いが「本当の出遇い」になっていたのが問われたのでしよう。

私たちも同じです。「南無阿弥陀仏」の教えを聴聞することは、本当にその教えに従って生きているのが、いつでも問われくるのです。親鸞聖人も「自分の信心は確かなものなのか」と生涯に渡って問われ続けられた方です。「これで分かった、これでもう大丈夫、これで自分はいいんだ」と言わせない教えです。つまり自分を絶対化する私を、絶対化させない教え、私にブレーキをかけてくる教えです。

私たちはどこかで「自分は間違いない、正しい」と思いたいのです。その正しいと思いついて、もうとしている自分自身が、いつでも問いかけてくるのです。

その問いかけられていることに気づかされるのは、生活の中で起こってくる出来事の一つひとつが大きな機縁になります。教区報恩講の案内文に報恩講企画会の皆さんからの呼びかけの言葉がありました。

我々は阿弥陀如来から「我が名を称えよ」と呼びかけられています。それにもかかわらず、その呼びかけに耳を傾けることのできないわが身がさまざまな「であい」によって知らされます

（教区報恩講チラシより）
さまざまな「であい」とは何なのか。教えを聴聞していると、分かったつもりになっていることがあります。本当に分かっているのかどうか、現実の問題との「であい」から問われてくるのです。



感話：加藤 元 氏

なるべき業縁のもよおせば

年末に大阪のクリニックで起こった事件で、25人の方が火災で亡くなる事件がありました。容疑者も亡くなってしまうましたが、何故この事件が起こったのか気になります。誰もが、このような事件を起こそうと思つて生まれて来ることはありません。様々な縁の結果として事件が起こったのです。それは本人だけの問題かという、そうともいえない。育つてきた環境や、社会の様々な価値観の中の生きづらさ、そんなことを感じて孤立していたのかもしれませんが。他にもいろいろな要因が重なつてのことだと思ひます。しかし、だからといって容疑者の行為は決して許されるものではありません。

類似する事件は、これまでもたくさん起こつてきました。しかし、そのことを自分こととして受け止めることはなかなかできません。やはり遠い向こうの出来事なのです。そこで思ひ起こされるのは、『歎異抄』第13章の

さるべき業縁ごう縁のもよおせば、いかなるふるまいもすべし『真宗聖典』634頁

という言葉です。条件が重なれば、私たちは

どんな行為もしてしまう存在。人を殺してはいけないことは誰でも知つてゐるはずですが、けれども縁次第では殺し殺されるということにもなる、つまり「いかなるふるまい」もしてしまう私であるということが教えられているのです。自分に絶対ないとは言い切れないのです。

そしてこの言葉について、ある方とお話する機会がありました。お知り合いが、この事件で亡くなられたそうです。その時のご自分の気持ちを『さるべき業縁のもよおせば、いかなるふるまいもすべし』は、『起こったことは縁による』ということだが、素直に受け止めることができない。自分に直接関係してくると、犯人に対して複雑な思ひがあつて、教えを聞いてきたことと、自分の気持ちが違つてしまう」いうことをお話してくださいました。自分の身の上に悲しい出来事が、降りかかつてくると、そうでない場合とでは、ずいぶん違う気持ちになつてしまいます。そんな時、作家の山田詠美やまだ えいみさんの言葉が目にとまりました。

ヒューマニズムは、自分と関係のない場合だけに、熱く語られる

(1月6日付『朝日新聞』「折々の言葉」)

様々な出来事も自分と具体的な関係がないと、熱く仏法の言葉を語つても、また何を言つても評論家のようになり、耳を傾けたことになつていない我が身の姿があります。自分にとつて都合の悪い出来事が降りかかつて、はじめて建前ではなく、私の内側に隠している私の目ごころの心、本心・本音が出てきます。

二つの「本音」

私たちは「本心」を隠して生きています。そして「本音」とは隠された「本心」が露わになつた状態です。どちらにしても本能的に、自分にとつて都合が善いか悪いかを求める心を本心、あるいは本音というのです。親鸞聖人は9歳から29歳まで、比叡山で悟りを開くための修行に励んでおられました。表向きは悟りを開くために修行するということですが、実際は修行することが、優れた者になる為の、人間的価値を高める為の、善人になる為の修行になつてしまい、そして一部の限られた人たちの修行になつてゐる。そういう環境にな人たちは、修行もできないし悟りも開くことができない。できる人は優れてゐる、でき

ない人は劣っているという善悪の観念の上に立った修行になっている。親鸞聖人自身がどこに立って修行しているのか、自分自身の立ち位置の問題で苦しみ悩まれたのです。自分の内側にある、優れたものになりたいという本音が、修行という建前で覆われていたのです。

でも本当はその本音の底に、もう一つの「本音」があるのです。その自らの底の底にある「本音」に、親鸞聖人は法然上人を通して出遇っていかれました。修行の生活では出会えなかった自分との出会いでした。そこに聖人の本当の意味での人間としての自覚的な誕生がありました。

本当の意味での誕生

親鸞聖人が人として生まれただけでは、私たちは聖人に遇うことはできません。聖人の本当の意味での誕生を表す言葉が、

しかるに愚禿^{ぐとく}釈^{しゃく}の鸞^{らん}、建仁^{けんにん}辛^{かのと}の酉^{とり}の
曆^{れき}、雑行^{ぞうぎょう}を棄^すてて本願^{ほんがん}に帰^きす

『真宗聖典』399頁

だと私は受け止めています。29歳の時です。

比叡山で修行し悟りを開くという仏教に行き詰まり、新たな仏道を求めて山を下り、六角堂に参籠した後、法然上人との「であい」がありました。その出遇いは、自分の今までのあり方、修行して悟りを開くということに大きな間違いがあるということが知らされた「であい」でした。立ち位置の転換、翻ります。これが「南無阿弥陀仏」の仏教との真の出遇いだったのです。そのことを表しているのが、「建仁辛の酉の曆、雑行を棄てて本願に帰す」という言葉です。善悪・優劣・上下の観念の上に立った修行という雑行、その間違いに気づかなかったという20年の修行の歩みを顧みた、親鸞聖人の深い痛みがありました。

ここに本当の意味での聖人の誕生があるのでしょう。今まで正しいと思っていた「自分に死んで」、本願名号の「南無阿弥陀仏」に基づいて生きるという、聖人の仏道の歩みの始まりを表す宣言です。安田理深^{やすだりしん}先生の言葉で言えば「本願の生活者」としての自己の誕生です。

そして親鸞聖人の七百回御遠忌法要の時、金子大栄^{かねこだいえい}先生と鈴木大拙^{すずきだいせつ}先生、曾我量深^{そがりようしん}先生の記念講演が行われました。曾我先生の講

題が「信^{しん}に死^がし願^{がん}に生きよ」。「南無阿弥陀仏」によつて翻されたことを、「死する」という言葉で表現されたのです。念々に翻されるということを、念々に死んでいくと言われました。念々とは「いつでも、いつでも」ということです。

自分の行動や考えていることが、本当とは



代表者による勤行

言い切れないことを、いつでも本願の名号、「南無阿弥陀仏」によって知らされる、それを「信に死し」とおしやつたのです。私たちの思いの底の底に、思いを超えて本当に「であい」たいという「本音」があり、存在の要求があるので。それが「雑行を棄てて本願に帰す」ということです。私たちは本当という世界に帰れと願われているし、気がついていなくても、帰りたいと願っているのです。

本物になりたい

NHKに「ドキュメント72時間」という番組があります。3日間同じ場所にカメラを設置し、行き交う人たちにインタビューをします。そこには様々な人生模様があります。ある古着屋で、服を探しに24歳の若い美容師が来ていました。彼は店舗を構えているわけでもなく、勤めているわけでもありません。インスタグラムで、自分がカットした髪モデルの写真を載せて、それを見たお客さんから仕事の依頼を受けることで生計を立てていると話していました。

そして美容師の国家試験に20数回も落ち

たと言い、インタビューをしている人がビツクリして、「そんなに落ちたんですか、よく諦めませんでしたね」と聞いたたら、「美容師になりたかったから。髪が好きだから。カットして女性が奇麗になるのは、素晴らしいことじゃないですか」と言い、続けて「実は自分は、勉強らしい勉強をしたことがないんです。だから受からないのも当然だったんです。でも頑張ったんだ」と笑顔で話していました。そして最後に力強く「本物になりたい」と言っていました。

確かに技術が優れて、上手にカットできるようになることが、本物の美容師なのでしょう。でもインスタグラムを見て、依頼をする人たちは一人ひとりです。一人ひとりと向き合い、何を望んでいるのか、どんな髪型が似合うのか。他者に対して真摯に向き合う。もちろんビジネスだけど、ビジネスを超えて人としてちゃんとその人に向き合い、他者をしつかり受け止められるようになっていきたい。そのようなニュアンスでした。この放送を見て私は、きつとどんな人も、自分では気づいていないかもしれないけれど、他者と信頼関係をしっかりと結んでいきたいと、皆どこかで求めているのではないかと感じさせられたので

す。美容師もお医者さんも政治家も学校の先生も、サラリーマンも、お坊さんだって、一人ひとりが信頼できる、尊重し合える世界を皆が望んでいる。それが本物ということなのではないかと思つたのです。それは私たちにとつて当たり前のことです。

しかし望んでも実際は違います。他者との関係の中で不利益があれば、一人ひとりを大事にすることが難しくなり、排除や傷つけ合うことが起きます。自分の利益が優先され、利益に絡んだことがあれば、目の前の人が人として見えなくなってしまうということも絶対ないとは言えません。そうなってしまう私たちの姿があるのです。

「善」と「悪」を超える

親鸞聖人は、20年間の修行の自分の立ち位置を、教えを通してどのように受け止めておられたのでしょうか。『教行信証』「信巻」の別序に

自性唯心に沈みて
定散の自心に迷い

『真宗聖典』210頁

とあります。自性唯心に沈む、自分が自分の心に沈んでいる。自分が良いと思っていることに、間違いない、つまり自分は正しいと思っているということです。ですから沈むとは、自分が見えていないという意味になります。それを定散の自分の心に迷うとおっしゃいます。「正信偈」に「矜哀定散與逆惡」という偈があります。「矜哀」は、悲しみです。「定善」と「散善」で「定散の二善」といいます。なので「定散」とは善です。どんな善かというところ「定善」が修行です。難しい言葉ですが、定善を息慮凝心そくりよぎようしんといっています。「散善」とは、修行はできないけれども、善いことをして悟りに近づき、人のために役に立ち、自分が高められていくという行為です。善導大師は『観無量寿経疏』「散善義」の中で親孝行、先輩を敬う、生き物を殺さないなど三つ示してあります。それを、廃悪修善はいあくしゆぜんといえます。悪い行いは廃して、善い行いを修めるという意味です。

これが親鸞聖人の比叡山時代の修行の立ち位置です。修行が進むことが優れていて、修行が進まないのは劣っていることになります。修行できるのが「上」で価値がある、できないのは「下」で価値がない。だから悟りを開

くことが優れた人間ということになります。そういう立ち位置、「定善」です。それができなければ、ちよつと善いことをして悟りに近づくと「散善」です。

そして劣っているものや価値がないものは、「悪」とされるのです。そこに存在の意味が「ある」「ない」ということになります。修行して悟りを開こうとすることが、人間の善悪の意識を超えられないという現実がありました。修行の仏教に対する疑問です。そういうことに気づいていかれたのです。

『歎異抄』第四章に「ものをあわれみ、かなしみ、はぐくむ」という聖道の慈悲を表す言葉があります。わかりやすいのですが、そのわかりやすさの中に危うさがあり、私たちの善悪の価値観の本心「本音」があります。

その本音のことを「煩惱」と言います。つまり善悪の心を煩惱と言うのです。その心を持った存在が凡夫です。「正信偈」に「一切善悪凡夫人」と示されています。そういう自分に気づかれた。そこに人間としての精神の誕生があり、新しい生き方が始まるのです。それを「往生」と言います。ここに教えとの「であい」があり、その教えに立つことができたことを「立教」と言います。そして自分自身

の拠り所としての宗むねが開かれることを「立教開宗」と言います。親鸞聖人においては、「建仁辛の酉の暦、雑行を棄てて本願に帰す」がもう一つの本当の意味での「立教開宗」ではないかと、私はそう思っています。

そして、「親鸞」という名告りも「立教開宗」を表す名前なのではないでしょうか。天親、



真宗会館の様子

曇鸞の教えを通して『大無量寿経』という經典が真実であるということを顕かにした仏教が浄土真宗です。同時に人間に真実はなく、真実に背いているからこそ、「南無阿弥陀仏」の教えがあるのだということを顕かにされました。その結果が『顕浄土真実教行信文類』つまり『教行信証』です。顕かにしていくことが託された名前が「親鸞」です。そこに「親鸞」と名告る親鸞の、人間としての、念佛者としての真の誕生があります。

「南無阿弥陀仏」という大行

「南無阿弥陀仏」は自分の努力や自分の心を基にして修行する行ではありません。

行にすなわち一念あり、また信に一念

あり
『真宗聖典』191頁

「南無阿弥陀仏」と称えることを「称名」と言います。称えるということは名を聞くということで「聞名」と言います。名を聞き、名の心に触れて、「気づかなかったことに気づかされる」領きを、自分の力ではなく「南無阿弥陀仏」から頂くことを「信」と言います。そこに「であい」の喜びがあります。『大無量

寿経』の「聞其名号 信心歡喜」です。それが「慶讃」、慶び（喜び）讃えるということです。それを行の一念、信の一念と言います。私の心を基にした人生が、そこで終わり、本願名号に基づいた生活がそこに始まるという意味です。

親鸞聖人は『愚禿鈔』で

本願を信受するは、前念命終なり
即得往生は、後念即生なり

『真宗聖典』430頁

とおさえ、本願を受け止め生きること、自分の心に従って生きる自分に死んで、「即得往生」「後念即生」として、そこから自分の人生が改めて始まる。浄土往生を得ること、これは『顕浄土真実教行信証文類』ですから、浄土という表現を通して「顕かになる真実」に聞き触れながら生きる。死んで浄土往生ではありません。浄土という世界を通して真実を頂くのです。行の一念、信の一念、そしてその一念は前念命終、後念即生という一念です。それを『教行信証』『信巻』では

臨終一念の夕、大般涅槃を超証す

『真宗聖典』250頁

とおっしゃいます。「南無阿弥陀仏」という本願の名号を称え聞くことによって、間違つて

いた自分を知らされ、翻され、転じられるという領き、それが「信に死し」であり臨終の一念です。そして大般涅槃の覚りをいただくのだとおっしゃるのです。煩惱の火が消えた状態を涅槃といい、その存在を「一如」と言います。

私たちは善と悪を比べるので「二」の世界です。「二」は比べない世界です。人間の意識は善悪で比べるけれど、本来は、この私という存在は唯一なる存在、善悪を超えた存在、それを大涅槃という言葉で教えてくださっています。自分のこれまでとこれからを「前念命終・後念即生」という言葉で表し、それを曾我先生が「信に死し願に生きよ」とおさえてくださいました。さらに「正信偈」の「慶喜一念相応後」にあるように、「慶喜」という「であい」の喜びが表現されているのです。「自分には信心がなかった、間違っていた」という深い領きの中で、「出遇って本当によかった」という慶讃の世界を頂くのです。

そして先ほど申し上げた「矜哀」は悲しみです。私たちは悲しまれているのです。「定散与逆惡」の私たちに「光明名号」の「因縁」の世界が開かれ、それを通して「開入本願大智海」と、海のように深くて広い智慧の世

界に開き入れしめられるのです。本願の智慧の比べない世界が、すでに私たちに開かれているのです。開かれているから、帰ることができます。「帰入功德大宝海」の「帰入」、「帰命無量寿如来」「帰命無碍光如来」の「帰命」です。「南無阿弥陀仏」を通して、私たちが人間存在そのものの比較を超えた世界、本来の世界へ帰る。それを涅槃という言葉でお示しくださっているのです。

そして『教行信証』『行巻』に、大行とは私たちの行ではなく如来の行と示されています。私たちの思いを超えた比較を超えた真実からの呼びかけです。

大行とは、すなわち無碍光如来の名を

称するなり
『真宗聖典』157頁

この言葉には主語がありません。誰が念仏申すのかというと、主語は諸仏です。諸仏とは私に先立つて教えとの「であい」を得てこられた先輩方です。その先輩たちが称えたから、私たちも称えることができ、先輩たちが「報恩講」をお勤めしたからこそ、私たちも今においてお勤めできるのです。決して私たちの力ではありません。そしてこの「行巻」の続きには

この行は（中略）真如一実の功德宝海

なり。かるがゆえに大行と名づく

『真宗聖典』157頁

とあります。この行、つまり「南無阿弥陀仏」は、真如一実の功德宝海とおさえられてあります。「真如一実」とは、あるがままの私たちの存在が、この言葉の文字を用いて「真実」であり、「一如」であると。そして存在を比べることのできない「一」の世界を、「功德宝海」と示してくださっています。「南無阿弥陀仏」の世界を宝の海とおっしゃるのです。そのことを『一念多念文意』の中で

宝海ともうすは、よろずの衆生をきら

わず、さわりなく、へだてず、みちびき

たまうを、大海のみずのへだてなきにた

とえたまえるなり『真宗聖典』543頁

故・竹中智秀専修学院長は「えらばず、きらわず、見すてず」とおっしゃいました。私は竹中先生のお言葉の根拠は『一念多念文意』のこの文にあるのではないかと思っています。「えらばず、きらわず、見すてず」。これが真実です。それを「南無阿弥陀仏」というお言葉を通して、自分の心を立ち位置にしている私たちに、間違っていたという翻りを、気づきを促し、自覚させようとはたらいてくるのです。「えらばず、きらわず、見すてず」と

いう真実に私たちは出遇うために生まれてきたのです。なぜなら、私たちはそのことを失った者として生きているからです。もつと言え、人でありながら人を失った人として生きているということでしょう。真実に「であう」ことが「生まれてきたことの意味」なのだ、私は受け止めてさせて頂いています。

**南無阿弥陀仏 人と生まれたことの意味
をたずねていこう**

安田理深先生の本を読んでおりましたら、「生まれてきたことの意味は、生まれてきたからの自覚があきらかにすることありました。自覚を信心と置き換えることができます。私たちは定散二善の価値観から、離れることのできない煩惱具足の身ですから、自分の力で自覚することはできません。「南無阿弥陀仏」との「であい」によって、定散二善が間違っていた、そしてそこから離れることのできない我が身であるという痛みを伴った領きが、同時に慶讃という喜びとなつて、私たちに与えられてくるのです。だから「矜哀定散」から「慶喜一念」と「正信偈」で展開してある

のです。それが親鸞聖人の「であい」の世界です。

50年前の御誕生800年のテーマは、「生まれた意義と生きる喜びを見つけよう」でした。今回の慶讃法要のテーマは、「南無阿弥陀仏 人と生まれたことの意味をたずねていこう」です。生まれた「意義」と「意味」はどう違うのでしょうか。「義」は道理です。生まれてきた道理は何か。「人身受け難し」です。私たちの生まれも生きていることも、決して当たり前ではないのです。だからどんな人もかけがえのない千載一遇の因縁性起の存在なのです。

『大無量寿経』には、一人ひとりの存在そのものが尊いということを「光顔巍巍」と表現されています。光輝いて厳かで尊い顔、つまり私たち一人ひとりの存在を表しています。それが「生まれた意義」の「義」の意味なのです。そのことが自覚されるところに生きる慶びがあるのです。つまり「生まれたことの意味」は、生まれた意義の自覚です。自覚によって、信心によって、転じられ、翻され、念々に死するからこそ、そこに痛みとしての慶讃があるのです。

私たちの立場で考えた「生まれた意味」は、

「自分の人生はこうなれば意味があり、こうならなければ意味がない」と人間の心で自分の人生を価値づけることになってしまいます。それが「南無阿弥陀仏」によって翻されるのです。そこに意義が見いだされます。真如一実のかけがえのないのち、存在です。お釈迦様のお誕生の逸話では、「天上天下唯我独尊」。『大無量寿経』で言えば「無上尊」、上もなく下もない尊さということでしょう。「光顔巍巍」です。「であい」によって開かれていく世界です。何事も「であい」がなければ眼を開くことができない世界です。

企画会の方々が「であい」というテーマを3年間温めてくださり、今年はその集大成でした。報恩講を勤めるということは、「であい」の起点です。お寺のあらゆる「であい」は、報恩講での「であい」から始まるといっているでしょう。

今日の東京教区報恩講のテーマは、「であい」「誕生」「立教開示」「南無阿弥陀仏 人と生まれた意味をたずねていこう」でした。一つひとつが大切な課題です。その課題に触れながらお話しさせていただきましたが、丁寧さを欠いた中途半端な内容になり、大変申し訳なく思っています。改めて一つひとつの課題

の重さ、深さ、広さを思い知らされた尊い時間でした。ご清聴いただきありがとうございます。

なお、親鸞聖人の慶讃法要が来年勤まりますが、東京教区では、6月13日にオンラインでお待ち受け大会が配信されます。この課題を胸に、参詣される皆さんとオンライン上でお参りし、池田勇諦先生のご法話をご一緒に聴聞して参りたいと思います。

それではご一緒にお念仏申して、今年の東京教区報恩講を閉じさせていただきます。なんまんだぶつ、なんまんだぶつ、なんまんだぶつ。

※今号で掲載した法話は『ネットワーク9』編集部がテップ起こし、編集したものを、改めて講師であります海法龍氏に校正をいただき掲載しております。

教区報恩講を各地でオンライン参拝



教区報恩講の様子は「暮らしにじいん」報恩講ページにてご視聴いただけます。



<https://youtu.be/kEqqRSfSenM>

教区報恩講がオンラインで厳修されることに伴い、教区内各地で、オンライン配信をご門徒と共に視聴、参拝された皆様を取材いたしました。今回、取材にご協力いただきましたのは、湘南組 真福寺、東京3組 三帰会です。
お忙しい中ご協力いただきましたことに御礼申し上げます。

東京教区 オンラインサポートのお知らせ（寺院・教会）

東京教区では慶讃法要お待ち受け大会（6/13）のオンライン配信が予定されています。全国的にもZoomやYouTubeといったオンラインを活用した法話配信や学習会がすでに活発に行われています。この機会に、教区のサポートをご利用いただき、オンラインを自らとご門徒の聞法的手段としてお役立てください。

サポートについて

受けたいサポート内容を、各組同朋の会教導か東京教務所（担当：佐々木・渡邊楽）にお問合わせください。ご連絡の上、貴寺院に出向いてサポートいたします。

東京教務所 Tel:03-5393-0810 Mail:tokyo@higashihonganji.or.jp

湘南組 真福寺

【ご住職へのインタビュー】

「コロナ下での法務の状況を教えてください。また、今回サテライトという形で教区報恩講への参拝を企画されたのはなぜですか？」

秦住職 この2年間、葬儀に関してはお通夜が無かったり、お斎が無かったりという、少人数で時間を短縮した形が多くなりました。法事も、家族だけでのお勤めが増えましたね。お寺での行事は、1年目はほとんど何も出来ませんでしたし、2年目は永代経や報恩講も法話などは出来なくて、本当に「お参りだけ」という感じでした。ただ、海先生に講師をお願いしている毎月の法話会だけは、緊急事態宣言が出た時以外は続けてきました。

教区報恩講については、コロナ下になる前は毎年、真宗会館へ団体参拝していましたが、昨年に続き今年も行けなくなってしまいました。6月にオンライン開催される教区お待ち受け大会も見据えて、教区のサポートを



秦住職

受けながらサテライトの準備を進めてきました。

私自身は、オンラインには抵抗があります。教区報恩講も、道中のバス車内での会話やお参りした後の食事会など、ただ法要に参加して聴聞するだけではない良さがあるので、それが出来ないのは少し残念ですね。それでも、お寺に来なくても来られない方々のために、今後は自坊の報恩講や永代経をリモートで行なうのも、一つの方法として検討しています。

【ご門徒さんへのインタビュー】

「今回、教区報恩講にオンラインという形で参加してみて、いかがでしたか？」

原幸子さん 主人が亡くなって5年経ちますが、これまで一度だけ教区報恩講に参詣した事があります。今回、こういう形での参加は初めてですが、阿弥陀様の前で法要に参加し、聞法できたことは大変うれしく思っています。オンラインでの聞法は、実際に現地へ行

って聞くのとは違った意味で面白いと感じました。



原さん



内田さん

内田孝一さん

コロナ下の前は毎年、真宗会館へ行っていました。本来なら会館でお参りした方が、身が引き締まるような気持ちになるので、オンライン開

催は残念です。ただ、このような状況下で聞法出来たのはよかったと思います。第一印象として、思っていたよりも画面が綺麗で見やすかったです。設備の準備をしてくださったご住職たちには感謝しています。

今日、海先生の法話を聞いて、生きてきたことを意味づけるのは難しいと思いました。私も先が見えてきたと感じた時に、だからと生きてきて、やつとここらへんで、「ああ、生きるってこういうことか」と思うようになりました。悲観はしていませんが、人間はいつか死ぬものだから、自分の生き様を見つけて一生懸命に生きようかと思っています。

(取材／五島 大地・和田 祐樹)



▲10名以上のご門徒さんが参詣された

東京3組 三帰会

教区報恩講がオンラインで厳修されたのち、東京3組三帰会ではウェブ会議システム「Zoom」を活用した座談会が行われました。

―三帰会ではオンラインを活用した座談会を日頃から行っているんですか？―

元々は対面で輪読などを行っていましたが、コロナ下になって、ここ1、2年ではありませんが月に1回ほど「Zoom」を活用して語り合いの場を開いております。

人の体温が感じられない中で、発言するタイミングなど最初はずいぶんと戸惑いました。ここ最近ではミュート（消音）の仕方など、段々と慣れてきたことと思います。

―今年もオンラインによる報恩講を迎えましたが、今回はどのように感じましたか？また来年はどのような形で迎えたいですか？―

Aさん 私は対面で教区報恩講を迎えたいという思いを今日もまた強く持ちました。感話



▲zoomにて行われた座談会の様子

をされた加藤さんが「自分には信心がないんだ」とおっしゃられていました。僧侶になられた経緯であるとか職場での体験であるとか、そのことに気づかされた背景を懇親会の場でお酒を酌み交わしながら、もつと聞いてみたかったです。オンラインですと隣に座するということができませんので、できることならば来年は対面で迎えたいと思います。

Bさん もちろん対面で教区報恩講を迎えたという気持ちもありますが、こうやって少人数で先生の話を聞いた後、そのままオンラインで座談会を行うのもいいなと思いました。熱があるうちに仲間内で語れる、今この時間がいいなと思っています。

Cさん 寄り合い、談合して自分の思いを言語化し、自分を確かめるということが、法話の後には大切だと思っています。言語化すると今の立脚地が分かるけれど、聞いて聞きっぱなしになってしまうと、そこが曖昧になります。来年はぜひ対面であつてもオンラインであつても座談会を企画していただけたらなと思います。

Dさん 真宗会館で集まることができた場合でも、やはりオンラインで動画を流していただきたいなと思っております。また、こういった座談会がなければ、なかなか話を聞けていなかったと思うんです。その後にお酒を酌み交わして参加者の距離を縮める機会があれば有難いなと思っています。

所感 座談会に参加させていただいて、皆さんの語り合う姿がとても素敵だと感じました。対面でお話したいという気持ちも沸き起こりましたが、法話を聞いた後、熱を持ったまま仲間内で座談を行えるのもオンラインのまた一つの魅力だと思いました。この度、取材を受けてくださいました東京3組三帰会の皆様、誠に有り難うございました。

(取材／内藤 友樹・櫻田 純)

報恩講企画会を終えて

教区報恩講企画会チーフ 坪内 秀樹（東京5組 徳玄寺）



今年の1月28日にお迎えした教区報恩講をもつて、今期教区報恩講企画会の担当の法要が終了となりました。教区内の皆様におかれましては、多大なるご理解とご協力をいただき本当にありがとうございました。振り返れば任期3年の間、新型コロナウイルスの影響によって、初年度には想像もなかったオンライン配信による2度の報恩講をお勤めすることとなりました。

任期初年度にあたり「人にであう 教えにであう 自分にであう」というテーマを掲げました。今回、教区報恩講の企画に関わることになり、改めて「私にとって報恩講とは」と問われました。その中で「私一人が、宗祖のご法事である報恩講に身を運ぶことを通して、人にであう、教えにであう、自分にであう法要である」という視座をいただき、そこから初年度のテーマが生まれてきました。そして初年度の報恩講をお勤めした後、図らずも3年間「であう」もしくは「であい」をテーマに掲げてきました。

企画会では初年度の報恩講をお迎えするにあたり、これまでの報恩講にはなかった「であい」の場として座談会の具現化を模索していました。報恩講スタッフを対象に開かれた

初年度の事前学習会では、講義後班別に分かれての座談会を実施したところ、参加された方々並びに企画会のメンバーからも予想を超える良い反応がありました。そのことを受けて、2年目の「報恩講の夕べ」では班別座談を持つ方向で考えていましたが、オンライン配信での報恩講となり、その場を目にすることは叶いませんでした。企画会の皆さんからも、報恩講で座談会が実現できなかったことはもちろんですが、毎月の会議においても会えない、語れないことに対するフラストレーションは大変大きなものでした。

新型コロナウイルス感染症との「であい」によって私たちの生活は一変し、人とであう機会が極端に減り、県外への移動や会食などが制限されました。教団内で勤まる法要や研修会なども中止や延期が重なり、各種会議もオンライン会議がほとんどで、現在もその状況は続いています。そのような中、3年間講師を務めていただいた海法龍先生からは「仏教、真宗は本来面授の教えです」「真宗の法座の変質（の危機を迎えている）」と教えていた

できました。また「目の前に人がいない法話はつらいね」との生身の声もお聞かせいただきました。恐らくこれまでにないご苦労をおかけした3年間だったことと思います。

コロナ以前、真宗門徒は法座へ身を運び、場を共にし、懇ろに交わることを通して「聞法座談」の場を相続してきました。いわゆる「寄り合い談合」です。少なくとも私はその場で育てて頂いてきました。コロナ下を経験した私たちの社会では、教団内外を問わず「リアルコミュニケーションの重要性」が顕著になりました。感染リスクを抑えつつ限られた中で、どのようにその場を確保していくかという取り組みが、企業や学校などにおいてすでに始まっています。昨年と今年の教区報恩講では『ネットワーク9』を通じて「サテライト参拝」の推奨を行いました。コロナ下で各寺院においても様々な取り組みを為され、ご苦労されていることと思います。いま改めて私たちが真宗の法座の相続のため何を大切にし、具体的にどのように取り組むのが問われています。

報恩講企画会の皆さん 3年間お疲れさまでした！！



【チーフ】坪内 秀樹 (東京5組 徳玄寺)

土肥 真 (茨城2組 光照寺)

朝比奈 信昭 (群馬組 専精寺)

旦保 広美 (東京7組 宗泉寺)

原 知克 (東京5組 成満寺門徒)

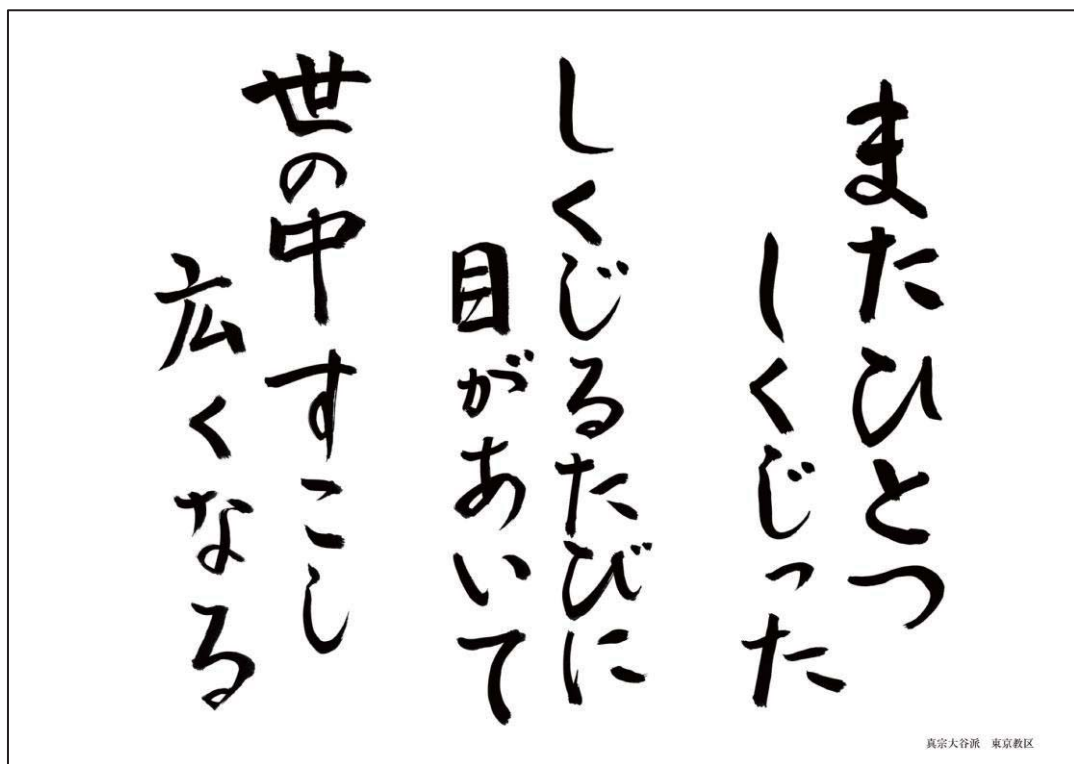
星野 暁 (茨城2組 浄安寺)

平松 敬子 (東京4組 専行寺)

稲垣 和弘 (東京1組 通覚寺)

稲垣 英昭 (東京真宗同朋の会)

今月の法語



書：佐藤 多仙

- ・頒布中「掲示伝道用ポスター」(A2 サイズ)
「掲示伝道ポスターミニ」(ポストカードサイズ)
- ・「掲示伝道用ポスター」が貼れる門徒宅用掲示板を無償設置いたします。
詳細は東京教務所まで。

「慶讃法要・慶讃テーマ」のポスターが

東京教区ホームページ「暮らしにじいん」から

ダウンロードできます!!

真宗大谷派（京都・東本願寺）

2023年 宗祖親鸞聖人御誕生八百五十年・立教開宗八百年慶讃法要

テーマ

『南無阿弥陀仏』

人と生まれたことの意味を

たずねていこう』

法要期間

【第一期法要】2023年3月25日～4月8日
【讃仰期間】2023年4月9日～4月14日
【第二期法要】2023年4月15日～4月29日



↑テーマの趣旨・願いについてはこちらをご覧ください。

The 850th Celebration of Shinran Shōnin's Birth
and the 800th Anniversary of the Establishment of
Jōdo Shinshū

Theme

Namu Amida Butsu

**To Discover the Meaning of Being
Born as Human Beings**

東京教区で作成しました「慶讃法要・慶讃テーマ」のポスターが東京教区ホームページ「暮らしにじいん」からダウンロードできます。ダウンロードしていただければ、ご寺院、ご自宅のプリンターでお好みのサイズに印刷できます。縦長サイズですの
で、掲示板のちよつとしたスペースに掲示いただくなど、ぜひご活用ください。

聖典学習会 「正信偈」に学ぶ

講師…一楽 真 氏（大谷大学学長）

善導独明仏正意 矜哀定散与逆悪

光明名号顕因縁 開入本願大智海

行者正受金剛心 慶喜一念相应後

与韋提等獲三忍 即証法性之常楽

（書き下し文）

善導独り、仏の正意を明かせり。

定散と逆悪とを矜哀して、

光明名号、因縁を顕す。

本願の大智海に開入すれば、

行者、正しく金剛心を受けしめ、

慶喜の一念相应して後、

韋提と等しく三忍を獲、

すなわち法性の常楽を証せしむ、といえり。

でも、仏に遇っていると、どこで証明されるのでしょうか。極端な話、今日ここにお釈迦様をゲストとしてお連れしたとしましょう。

そのお釈迦様を「仏」として見れるでしょうか。直接お会いしても、「ああ、やはりインドの人だ」と言って、肌の色とか背の高さとかを見たりして、イメージより貧相だとかもいれませんか。自分のイメージしている仏とは違うというだけで、「本当にお釈迦様ですか？」と言ってしまうかもしれません。

我々がいくら仏様にお会いする縁をいただいたとしても、仏と見えないという問題がある。これは、本当に仏を見るときで言えるのかという問題です。善導大師はこの題名をひっくり返すことによって、無量寿仏による観と言おうとしているのです。具体的には、第七華座観で、お釈迦様がお言葉を発せられたときに無量寿仏が空中に住立して下さるのです。そこで、初めて韋提希に無量寿仏が見えるのです。お釈迦様の説法があつて、阿弥陀にお会いすることが引き起こされたのです。ですから、韋提希が自分で予想して思い描いている仏ではないのです。ここが大事なところ

『観経疏 玄義分』の「釈名門」にお

いて、善導は『観無量寿経』を『仏説無量寿

観経』という題名でおさえます。「釈名門」は、

経の題名を解釈しているところです。ここで、

「仏説無量寿観経一卷」と「一卷」まで解釈

してゆきます。特に注意したいのは「観」の

位置です。聖典には、『仏説観無量寿経』と書

いてあります。これが伝わってきた題名です

ね。ですから題名を、その通りに読むと、お

釈迦さまがお説きになられた「無量寿仏を観

ずる経」です。実際、それが内容になってい

ます。

ところが、善導大師は『無量寿観経』と順

序を変えているのです。善導の言葉としては、

明確にそこまでは言い切れないのですが、無

量寿仏による観と言わないといけない。無量

寿仏のはたらきかけによって起こる観です。

なぜかと言えば、私たちが、仏を見ると言っ

ろです。題名一つとっても大事なのです。

そして、善導大師は『観経』が誰のために説かれたのかと言うときに、「韋提希等」と言います。普通にみれば、韋提希が説法の相手になります。もちろん阿難もいます。それで「等」と書いてあると、善導の言葉を読む方もおられます。しかし、善導は韋提希に語っているけれども、韋提希の救いだけを説いているのではないのです。これを、はっきり押さえるところに、「仏滅後の凡夫」という言葉が出てきます。

ここには大きく二つの問題があります。一つは凡夫。『観経』は善導大師の時代に流行していた經典でありました。それは非常にわかりやすい行が書かれているからです。西に沈む太陽を觀よとか、波立たない水を想い浮かべなさいとか、それが展開して仏を觀察してゆきます。段階的に仏にお会いすることが、示されて、非常にわかりやすい經典であると持てはやされていたのです。

そして、最後には、韋提希は無生法忍むしょうぼうにんという菩薩のさとりを得ていくと書いてあります。そこで、善導以外の諸師は、息子に裏切

られて悩み苦しむ人間に見えるけれども、実は韋提希は凡夫ではないと見るのです。無生法忍とは、菩薩でいうと第八地まで上って得るさとりです。それを得るのだから、韋提希は凡夫という姿を見せてくれている聖者であるというのが、善導以外の諸師の見方です。

しかし、善導は、韋提希自身が凡夫であると、『玄義分』で明確に語るので。それはなぜか。『観経』が、誰のために説かれた經典なのかということを確認しなければならぬからです。つまり凡夫の為の經典でないとなると、修行するのが基本になるわけです。修行が出来たら浄土に往生すると説いている經典になつてしまう。でも、そういう修行できないところにも道はあると善導はいうのです。

これが最後に、「二生造悪」と道綽が言った下品下生ほんげしやうに注目していく理由にもなるのです。凡夫の為の經典だということです。そして、併せて「仏滅後の」と言います。これもあらためて読ませてもらうと、『観経』には、「仏滅の後のもろもろの衆生等」とか「未来の衆生」という言葉が何遍も出てきます。お釈迦様が韋提希、あなたの為にも説くけれども、未来

の衆生の為にも説くと、大事なところになると出てくるのです。お釈迦様は、「為未來世いみらいせい」
「亦令未來世やくりやうみらいせい」とおっしゃる。

それを受けて韋提希自身も「私はお釈迦様のお力によって阿弥陀の世界を教えてもらいました。しかし、お釈迦様がいない時代の人はどうなるのですか」と訊ねるようになります。ここをもつて、釈尊入滅後の凡夫の經典だと、善導は言い切っていくのです。善導大師もそこにおられるわけです。

善導大師がそう言うてくださったことで、『観経』は二十一世紀を生きる、お釈迦様に直接遇えない私たちの為に説かれている經典であるということが明確になったわけです。

(文責 研修部門)

今後の聖典学習会の日程

2022年

5月13日(金) 13時～17時
6月17日(菌) 13時～17時

※お申込み・お問い合わせについては、東京教務所(担当…渡邊楽)まで

若者の宗教観から解る仏教の未来

Z世代の宗教観について

去る2月10日、第3回青年学習会が開催されました。今回は武蔵野大学准教授の碧海寿広氏をお招きして、「若者の宗教観から解る仏教の未来」の講題で講義をいただき、終了後に講義の内容に関する座談を行いました。当初、真宗会館で開催する予定でしたが、新型コロナウイルス感染再拡大の影響により、ウェブ会議システム「Zoom」を使用してオンラインでの開催となりました。

真宗大谷派 東京教区青少年部門 主催

◆お知らせ◆
新型コロナウイルス感染防止等関係
施設関係のため、Zoom を利用しての
オンライン開催に実施いたしました。

2021 年度 第 3 回青年学習会
～若者の宗教観から解る仏教の未来～
Z 世代の宗教観について

講 師
お お み と し ひ ろ
武蔵野大学准教授
宗教学者
碧海 寿広 氏

開催日時
2022 年 2 月 10 日 (木)
Zoom オープン 13:30 ~
当日 14:00 ~ 17:00

会場
オンライン会議システム「Zoom」
当日の会議URLは、題目が送りましたら、
メールにてお送りさせていただきます。

参加費
無 料

対象
40 歳代まで教区内僧侶

持ち物
念珠・真宗聖典・筆記用具

申込
※裏面記載の申込欄をご確認のうえ、PC またはスマートフォンに
てお申込みください。 2022 年 2 月 9 日 (水)

真宗大谷派 東京教区青少年部門

参加者感想

東京5組 道教寺 須賀 優
ゆたか

私が今回の学習会に参加して気づいたことは2点ありました。

1 点目は大学生の半数は、仏や神の存在を否定していないことです。これは、國學院大學が実施した調査によると、「仏や神の存在を信じている、またはありうる」と答えた学生は、合計で60%以上もいました。私は、大学生は仏や神の存在を非科学的として否定的にとらえていると想定していたので、この結果は意外でした。ただし、街頭での宗教の勧誘には否定的な結果だったので、若い人は宗教が嫌いではないが、積極的な教化を受けることは好きではないのだと感じました。

2 点目は、仏教の教えを肯定的に受け取る若い人が多いことです。これは、講師をされ



当日の様子

た碧海先生が、実際に学生への講義をされている話を伺い、そう感じました。教えを肯定的に受け取る学生も多ければ、碧海先生も「なるほど」と思われる意外な回答をする学生もいるそうです。若い人たちにも仏教の教えが心に響いているのであれば、後は教えの伝え方次第で更に興味を持ってもらえるのではないかと、と思いました。

私はまだ人前で法話等ができるほど知識はありませんが、もし若い人が多い中で法話をする機会があれば、今回の気づきを忘れず活かしたいと思います。



「真宗保育の実践」

創立 70 余年の歴史を持ち、現在は幼稚園型の認定こども園として運営しています。み仏さまの慈光のもと、恵まれた自然の中で、清く正しく、個性豊かな子どもの育成を本園の教育目標としています。また、地域貢献の一環として、未就園児の家庭を対象に親子教室や育児相談や園庭開放を行い、園の施設や機能を開放して、地域の幼児期の教育支援活動にも力を入れています。



日々行われている保育においては、子ども達が大きく成長することを願い、幼児期にふさわしい幼児教育を展開しています。幼児期は、自我が芽生え保育のなかから多くのことを学ぶ時期です。そして子どもは、その様々な体験から身も心も大きくなります。そのような発見や体験の積み重ねによって子どもにとっての「生きる力」の基礎的な部分の育みにつながるように意識しています。当園の保育者は、園生活の中で日本の四季の移り変わりを心と体で感じることができる環境を整えて、毎日の保育のなかで子ども一人ひとりの変化や成長を育む計画や取り組みをしています。

また、園で掲げている真宗保育のテーマは「共に育ちあう命」です。「共に育ちあう命」とは、人は様々な関わりあいのなかで、関わる全ての命とつながり合います。そのつながりを通じて、保育者も子どもも共に育ちあっていくことだと理解しています。ここ大谷幼稚園で出会い、今ここにいることの尊さを感じ、一人ひとりの命の関わりあい、すべての命とつながりあい、共に育ちあっていくことを園生活全体で共感していく、そのような真宗保育の実践を日々心掛けています。

学校法人 横浜大谷学園
認定こども園 大谷幼稚園
(神奈川県横浜市横浜港南区)

理事・園長 田中 貴章



web会議ツール Zoom 用

オンライン マニュアル

主催者編
&
参加者編

新型コロナウイルス感染拡大を受けて、オンライン法座を検討されている方々への一助となるよう、東京教区では web 会議ツール「Zoom」用のオンラインマニュアルを作成しました。

ダウンロードしての印刷・配布はもちろん、独自に文字等を変更することも可能です。

どうぞ下記、東京教区ホームページよりダウンロードしてご活用ください。

テレビ・Web会議システム

Zoom 参加マニュアル

オンラインマニュアル
参加者編

～お問い合わせはこちら～
主催者名
電話番号
メールアドレス

zoom はじめに
テレビ・Web会議システム「Zoom（ズーム）」は、パソコン、スマートフォン、タブレット端末で利用できます。ご利用の機器をご用意の上、以下の手順にてご利用のための作業をお願いします。不明な点は主催者にお問い合わせください。

Zoom参加に必要なもの
1. 使用機器（パソコン・スマートフォン・タブレット）
2. インターネット回線
3. Zoom公式アプリ（スマートフォンは必須）
4. 使用機器で使用するメールアドレス等

◆もくじ（アプリ導入から参加までの流れ）

- 1 Zoomアプリ導入
パソコン
- 2 Zoomアプリ導入
スマートフォン
タブレット
- 3 接続テスト
- 4 ブラウザで参加
(アプリ設定できない場合)
- 5 主催者から案内を受け取り、参加する

注意点・マナー・・・6
Zoomの使い方・・・7
困ったときは・・・8

真宗大谷派東京教区 1

真宗大谷派東京教区 オンラインマニュアルプロジェクト



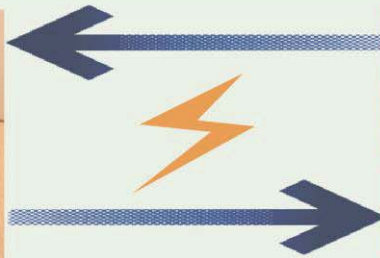
オンラインマニュアル 「Zoom」法座配信

主催者編

目次
前巻・・・・・・・・・・1
必要な準備・・・・・・・・・・2
接続・入室・・・・・・・・・・5
オンライン法座配信事例・・・・・7
YouTube配信・・・・・・・・・・8

お問い合わせ オンラインと配信の仕方がよくありません。このマニュアル/オンライン配信についての詳細は、お問い合わせ先
真宗大谷派東京教区 担当：佐々木 渡邊 両氏
info@ji-n.net
TEL: 03-5393-0810

ダウンロード先



真宗大谷派東京教区ホームページ（暮らしにじいん）

<http://www.ji-n.net> にてダウンロードできます。

※web版は随時バージョンアップし、アップロードしていきます。

問い合わせ先 東京教務所（佐々木・渡邊 楽）



児童教化連盟

じれん

参加者・スタッフ

募集!!

春の遠足・夏のキャンプ・子ども報恩講を開催しています
また、児童教化に関する研修会（年2回）も行っています
お子様のご参加、スタッフとしてのご参加をお待ちしています



詳しい活動は
←QR (facebook) を
ご覧ください

お問合せは児連事務局まで

〔東京教区児童教化連盟 事務局〕

〒130-0012

東京都墨田区太平2-7-1本明寺内

TEL 03-3623-1536

委員長 本田彰一（東京1組）

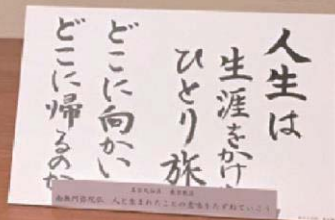
✉tokyojiren@gmail.com

NEW

「掲示伝道ポスター」

ミニ

ポストカード



2017年度 A・B（2種類）
2018年度 A・B（2種類）
2019年度 A・B（2種類）

■各100円
各6枚入
簡易スタンド付き
はがきサイズ
送料250円
（場合によって500円）

東京教区教化委員会広報出版部門では、毎年掲示板に掲示いただくための「掲示伝道用ポスター」を発行しております。

このたび、生活の中でより身近に言葉に触れていただけるように、

ポストカードサイズの「掲示伝道用ポスターミニ」を発行いたしました！

ご寺院での行事の際に、ご門徒への記念としていかがでしょうか？

お申込み：東京教務所（TEL03-5393-0810/担当:海）まで

駐在
日記

駐在からひとこと

写真：真宗会館探訪！

「地階事務所入口の中庭」



東京教区駐在教導

佐々木 弘明

「目的達成できず」

愛用していたマスクの布地が傷んできたので、マスクを買いに行こうと思い立ち、近隣（光が丘）にあるユニクロまで徒歩で向かった。

売り場に着いて、マスクコーナーで商品を探すと、目的のマスクは品切れだった。ユニクロのオンラインストアで店舗の在庫が確認できるので、事前に確認してから来るべきだったと、品切れの陳列棚の前で後悔した。

気を取り直し、せっかく外に出たので、このまま帰宅するのももったいないと思い、どこか立ち寄って帰る場所がないかと考えていると、最近、「ナポリピッツァ世界選手権第4位」（第4位がどのくらいの輝かしい経歴なのか分かりませんが）のピザ職人が焼いた冷凍ピザの無人販売所ができたことを思い出した。帰路を考えると遠回りになるが、行ってみることにした。

20分ほど歩き、目的の無人販売所

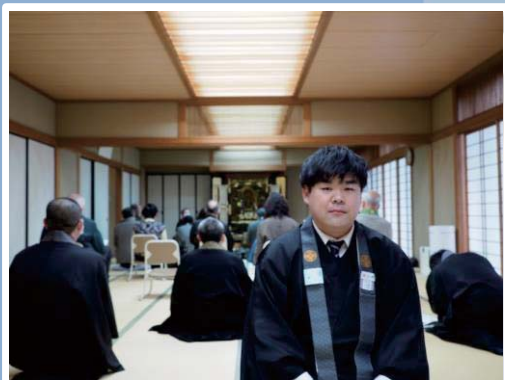
に着いてドアを開けると、目の前には空の冷凍庫が…。場所を間違えたのではないかと思い、店を出て、外観を確認、もう一度入ろうとドアを見ると、「ただいま品切れとなっております」と張り紙がされていた。

「ここも品切れか！」と、がっくり肩を落とし、さらに違う場所に行こうかとも考えたが、次に立ち寄った場所でもまた同じことが起こるような気もしたので、どこにも寄らずに帰宅することにした。

もし目的を達成していれば、充実感を得て、満足していただろう。今回は、何も目的を果たせず、充実感も得られなかったが、そんな日に対しても、充実感の有無や、満足・不満足に関係なく、自分にとって大切な時間だったと受けとめられるようになりたい。

後日、冷凍ピザを購入し、家族で食べてみたが、世界第4位のピザのすごさはよく分からないままである。

はい！こちら真宗会館です



東京教務所 書記

立野 正流

担当：願事事務関係

好きなアーティスト：羊文学・GADORO

好きなYouTuber：岡田を追い



昨年7月より東京教務所書記に配属されました立野正流と申します。以前は本山の研修部に所属しており、この『Network9』を楽しみに読んでいました。まさか自分が掲載されるとは思っておらず、何を書けばいいのか全く分からないまま今まさに執筆しています。

上記にもあるように、^{ひつしぶんがく}羊文学が好きで毎日のようにこのアーティストの曲を聴いています。苦手な飛行機でもこの人たちの曲を聴けば不思議と眠ることが出来る。是非、飛行機移動が苦手な方々に聞いていただきたいと思います。

次に趣味について話そうと思います。が、趣味がなく、とても困っています。休日は「〇〇しよう」と思っている、実際にはだらだらしてしまい、結局Netflixを見る日々になっています。何か良い趣味があれば是非教えていただ

きたいです。出来ればあまりお金がかからないものと非常にありがたいです。

さて、実は私が事務見習いの時に教務所実習で1ヵ月ほど東京教区にお世話になったことがあります。その時は、まだ新型コロナウイルス感染症が発生しておらず、真宗会館には毎日のように大勢の方が来館され、いつも賑わっていたことを鮮明に覚えています。

その様な中で、今はZoomやYouTube等を使用したオンライン形式での研修会や会議が多くなり、実際に顔を合わせて話す機会が減り、教区の方々と直接話すことが出来ないことを残念に思っています。ただ、オンラインだからこそ出来るようなことを見出して1つでも教区の方に「あれ良かったね」と言ってもらえるよう業務に励んでいきたいと思っています。

教区の情報をあなたに あなたの声を教区に!!

一緒にネットワーク9を作ませんか?

編集員募集中!!

Network9

東京教区教化委員会報 ネットワークナイン

取材、原稿執筆、校正、デザインなど、紙面作りに関するすべてを行います。お寺の新聞やチラシを作る時のスキルも学べるかもしれません。パソコン初心者の方でも大歓迎です。先輩編集員が丁寧に指導します。一緒に楽しいネットワーク9を作っていきましょう。

興味がある方、お問合せは東京教務所（担当：佐々木）まで

ネットワーク9へのご意見・ご感想をお寄せください
〒177-0032 東京都練馬区谷原1-3-7 東本願寺真宗会館内 東京教務所
【電話】(03) 5393-0810 【ファックス】(03) 5393-0814
【mail】nw9@ji-n.net



スマホやパソコンでぜひアクセスを! 東京教区のホームページ

暮らしに
じいーん



www.ji-n.net

検索 暮らしにじいーん

お寺をもっと身近に

多彩なコンテンツ

じいーん散歩 **New**
しんらんさまめぐり
法話/行事・講座
なるほど仏事作法
寺院検索
他

こちらのお寺も載っています!



スタッフ募集

パソコン技術は不要です

ホームページ班のメンバーは僧侶に限らず、月に約1回のペースで集い、アイデアを出し合ったり、時には現地取材もしています。ぜひ一緒に活動しませんか? (お問合せは教務所/立野まで)

敬弔

幡谷 順一様

埼玉組 顯正寺 前住職

2月20日命終 91歳

生前のご功勞を偲び、
念仏合掌して哀悼の意を表します。

2月末日届出迄

お詫びと訂正

『ネットワーク9』No.380(2022年
3月発行)に誤りがありましたので、お詫
びして訂正いたします。

・17ページ

(誤) 東京宗務出張所 次長
関 得道

(正) 東京教務所 次長
関 得道

涌^{ゆう}

編集員の随筆



先日、近所の門徒のばあちゃんが亡くなった。十年ほど前にお連れ合いを亡くされ、子どももなく、身寄りがなかった。亡くなったという連絡も、近所で親しくしていた方からだった。連絡をくれた方とは数年前から、ばあちゃんの今後の事を一緒に相談しており、都宮霊園にあったお墓をお寺に改葬することが出来たのも、その方のおかげだった。

喪主は遠方に住んでいるところが務めることとなったが、葬儀の段取りはその方に一任されることになった。お寺で葬儀を行うこととなり、それまでの数日はお寺で安置することになった。その時はばあちゃんの事を少しだけ不憫に思った。

しかし、ばあちゃんを安置して間もなく近所の方々が弔問に来られた。その日だけではなく、翌日も、翌々日も、通夜を行う日まで、弔問は絶えなかった。皆さん近所で親しくされていた方々だった。それだけではなく、ばあちゃんから見れば、子ども世代、はたまた

孫世代の方まで弔問に来られたのである。ばあちゃんの交友関係にビックリさせられた。身寄りのないばあちゃんだったが、葬儀には60名ほどが参列し、不憫どころか、どこか温かさを感じるほどだった。

近年、「家族葬」という名の小規模な葬儀が増えてきている。コロナ下ということもあり尚更だ。「参列者に気を遣わずに家族や近い人に見送られる」という、なんとも温かいような表現で説明される「家族葬」だが、本当にこれでいいのだろうか。もちろんご遺族の気持ちや無下にするわけではなく、葬儀の規模の大小を問題にしているのでもない。ばあちゃんの葬儀を勤めて「誰かの死は、特定の誰かのものではなく、その人に関わってきたすべての人のものである」と強く思ったからだ。

死してなお、大切な事を教えてくれたばあちゃん、ありがとう。南無阿弥陀仏

(東京1組 本明寺 本田 彰一)